

# 環境経営の推進 (詳細は環境アクションレポートをご覧ください。)

持続可能な社会の構築に貢献し続けていくために、事業活動と環境を両立する「環境経営」を九州電力グループ一体となって推進しています。

## 地球環境問題への取組み

### 温室効果ガスの排出抑制

電気の供給面と使用面の両面からの取組みに加え、京都メカニズムの活用などにより、低炭素社会の実現に向けた取組みを着実に進めています。

2009年度のCO<sub>2</sub>排出量は、2,910万トン-CO<sub>2</sub>と前年度に比べ80万トン-CO<sub>2</sub>の減少となりました。

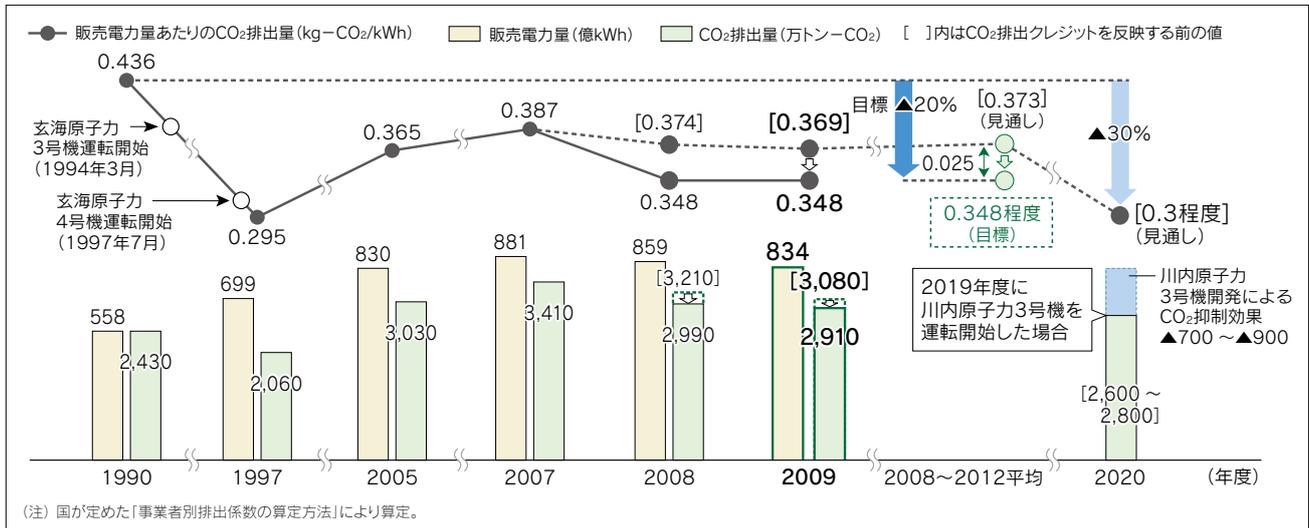
また、販売電力量あたりのCO<sub>2</sub>排出量は、0.348kg-

CO<sub>2</sub>/kWhとなり、2008年度に引き続き、目標レベルである1990年度実績比20%低減を達成しました。

**CO<sub>2</sub>排出抑制目標**

2008~2012年度平均の販売電力量あたりのCO<sub>2</sub>排出量を1990年度実績比で20%程度低減  
(0.348kg-CO<sub>2</sub>/kWh程度にまで低減)

▼CO<sub>2</sub>排出量、販売電力量あたりのCO<sub>2</sub>排出量の実績と見通し



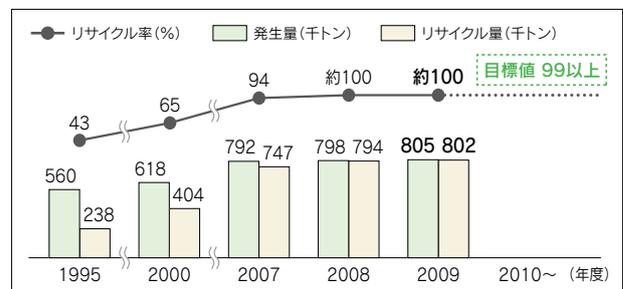
## 循環型社会形成への取組み

### 廃棄物のゼロエミッション活動の展開

当社が排出する産業廃棄物には、火力発電所の運転に伴う副産物(石炭灰、石こう)や工事に伴う撤去資材などがあります。これらの産業廃棄物については、適切な管理・処理を行うとともに、発生量の抑制(Reduce: リデュース)、再使用(Reuse: リユース)、再生利用(Recycle: リサイクル)の3Rを実践しています。

また、当社で発生する一般廃棄物には、オフィス活動に伴う古紙や発電所の貝類、ダムの流れ木などがあります。これらの一般廃棄物についても、適切な管理・処理を行うとともに、3Rを実践しています。

▼産業廃棄物発生量とリサイクル率



▼古紙などの一般廃棄物発生状況(2009年度)

|      | 発生量 (トン) | リサイクル量 (トン) | リサイクル率 (%) | 主なリサイクル用途 |
|------|----------|-------------|------------|-----------|
| 古紙   | 1,390    | 1,390       | 100        | 再生紙       |
| 貝類   | 162      | 147         | 91         | 肥料        |
| ダム流木 | 2,082    | 2,082       | 約100       | 敷きわらの代用品  |



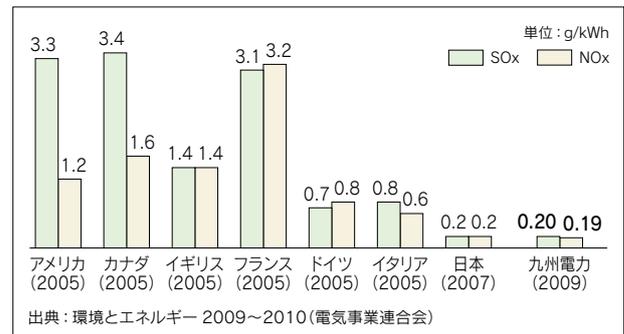
## 地域環境の保全

### 大気汚染対策

火力発電所から排出される硫黄酸化物(SOx)等の排出を低減するため、様々な対策を行っています。

2009年度の火力発電電力量あたりの硫黄酸化物(SOx)・窒素酸化物(NOx)の排出量は、設備の適性運用等に努めた結果、国際的にも極めて低い水準を維持しています。

▼世界各国の火力発電電力量あたりのSOx、NOx排出量



## 社会との協調

### 九州ふるさとの森づくり

創立50周年を記念して、2001年度から10年間で100万本(10万本/年間)の植樹を地域の皆さまと一緒に挙げて行く「九州ふるさとの森づくり」を九州の各地で展開しています。

なお、植樹においては、将来的に人の手があまりかからない、九州の自然植生であるシイ・タブ・カシを中心としたその土地本来の樹種による森づくりを行っています。



九州ふるさとの森づくりin干潟よか公園(佐賀県佐賀市)

### エコ・マザー活動

子どもたちへの環境教育支援と、ご家庭における環境教育の担い手である保護者の皆さまへの環境情報提供を目的として、2003年度から「エコ・マザー活動」を展開しています。

ここ数年は毎年300回程度実施し、2万人以上のお子さまや保護者の方々にご参加いただいております。これまでの7年間で参加者数は10万人を超えました。



春日町幼稚園エコ・マザー活動(大分県大分市)

## 環境管理の推進

### 環境マネジメントシステム(EMS)の的確な運用

九州電力では、ISO14001に基づくEMSをすべての事業所で構築・運用しています。

また、当社環境部による事業所のEMS運用支援や環境管理責任者及び事業所EMS事務局を対象としたEMS研修により、EMS運用レベルの継続的な向上を図っています。

一方、グループ会社のEMSは、構築レベルを6段階に分類した九州電力のグループ会社独自の統一的な基準(九電グループにおけるEMS構築体制基準)に基づき、グループ会社ごとに構築しています。

EMSの的確な運用と効果的な活用により、環境負荷の継続的な低減を図ることで、九州電力グループ一体となった環境経営を推進していきます。



SOx(硫黄酸化物)  
NOx(窒素酸化物)

環境マネジメントシステム(EMS)  
ISO14001